

令和5年度

外国人留学生選抜

特別選抜（帰国子女） 試験問題

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないで下さい。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入して下さい。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用して下さい。
- 4 問題は全部で4ページあります。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手して下さい。

問題1 次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

ピジンとクレオールという言葉がある。どちらも言語学の専門用語だが、最近^{しろウト}は¹)素人の私の耳にも入ることがある。

ピジンという言葉は、ピジン・イングリッシュという表現で目にしたことのある人も多いかもしれない。ピジン・イングリッシュはふつう、ハワイやメラネシアなど太平洋の島々で話される土着風^{どちやくふう}に崩れた英語^{くず}というくらいの意味で使われることが多い。

だが、言語学でいうピジンは、もっと一般的かつ客観的^{きやつかんてき}な概念^{がいねん}であるようだ。非専門家の私が理解しているかぎり^{せつしよく}でいうと、ピジンとは言葉の違う多数の民族が接触した時、商売の取り引き^{とひ}その他の必要^{せま}に迫られて、自ずとできてくる共通の言葉である。だから太平洋の島々で使われるピジン・イングリッシュも、英語をベースにしたピジンの一つではあるが、ピジンのベースになる言葉は、なにも英語に限られるわけではない。現在、地球上には歴史的^{しよご}理由から²)英語ないしはヨーロッパ諸語をベースにしたピジンが多いが、しかし本来のピジンの成立は、どの時代でも、どの土地でも、普遍的^{ふへんてき}に見られる言語現象である。現在でもアフリカ西海岸のハウサ語ベースのピジンなど、西欧諸語とは関係のないピジンも多く存在するという。

さて、そうやってピジンができた時、大事なものは、それが簡単ではあるが、新しい独立した言語だということである。ピジンには、それを取り巻く^まさまざまな言葉から、さまざまな単語が流れ込んでくるのは当然だが、しかしそれだけではなく、いわゆる文法の面でも、まわりの言葉の影響^{えいきやう}を強く受けて、ベースになった言葉の文法とは違う、新しい文法ができてくる。その点で、例えばピジン・イングリッシュはしばしば誤解されているのとは違い、決して崩れた片言英語^{かたこと}ではなく、また英語の方言でもなく、新しい言語なのである。

もちろんピジンは、例えば³)市場での物の売り買いのような限られた用途^{ようど}のために生まれてくるから、始めは、ごくごく簡略な言葉である。またそれを使う人々も、それぞれ自分たちの生まれながらの言葉、言語学でいうところの母語を別に持っていて、それでは通じない相手と話す時だけ、共通語としてのピジンを使う。そして、例えば商取り引きのルートが変わるなどして用途^{ようど}がなくなれば、ピジンがそのまま死滅^{しめつ}*1してしまふことも珍しくはないようである。

しかし、中には、⁴)できた時の限られた用途を越えて発展するピジンもある。外国で暮らしている日本人の家庭で、家族の間の会話にも少しずつ土地の言葉が入り込んでくるのは、よく見られる現象だが、同じように市場で使われていたピジンが、いつのまにか日常生活や家庭内でも使われるようになる。そうすると、今までは取り引きのことしか表現できなかったピジンが、しだいに日常生活のさまざまな事柄^{ことがら}、更に人間の感情も表現できる複雑な言葉に成長していく。ピジンによる文学が生まれ、地域の儀式も共通語であるピジンで行われ、教会でもピジンでの説教^{せつきやう}*2が始まる。

そうやってピジンが、多民族地域の共通語として、生活のあらゆる分野に浸透^{しんとう}して何十年かがたつ。そうするとしだいに従来^{じゅうらい}*3の母語が後退し、ピジンしか話さない新世代が生まれる。彼らにはピジンが母語となる。そこまできた時、ピジンはクレオールと呼ばれることになる。

注)

- *1 死滅^{しめつ}・・・なくなってしまうこと
- *2 説教^{せつきょう}・・・お寺や教会などで行われる教えのこと
- *3 従来^{じゅうらい}・・・これまで

【出典】柴田 翔『希望としてのクレオール』（筑摩書房，1994年）

（出題者注）

出題に際して、原文中の注)の語彙に説明を加えている。また原文中の漢字語彙のうち、日本語能力試験 N1 級レベルにあるものについては、ルビをふり、なおかつ出題上重要な語彙については、言い換えている箇所がある。

設問 1 下線部 1)～3)について、ほぼ同じ意味の言葉を本文中から抜き出さない。

- 1) 素人^{しらうと}
- 2) 英語ないしはヨーロッパ諸語^{しよご}
- 3) 市場での物の売り買い

設問 2 以下の文章について、本文の内容と合っているものに○、違うものに×をつけなさい。

- 1) ピジン・イングリッシュは、主に太平洋の島国で使われている言葉である。
- 2) ピジンとは、言葉の違う民族間のやり取りから自然に生まれてきた言葉である。
- 3) ピジンが生まれたのは過去のことであり、現在はあまり見られない。
- 4) ピジンは、周りの言葉の影響^{えいきょう}を受けない新しい言語であると考えられる。
- 5) ピジンを母語とする人々のことを、クレオールと呼ぶ。

設問 3 下線部 4)に関連して、例えば日本語の「寒い」ということばは、従来「気温が低い」ことを表すものでしたが、近年「面白くない/不快だ^{おもしろ ふかい}」という意味でも使われるようになっていきます。こうした例をもとに、あなたの知っている言語で、**意味や使われ方が途中で変化した言葉**の例を一つ挙げなさい。また、その変化について 200 字程度で説明しなさい。

問題2 次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

〈国＝文化〉という枠組み

社会言語学者のリチャ・オーリーが、ある小学校の劇の予行練習を見学したときのことである（Ohri, 2016）。劇のなかで、ケニアの保育園の話があった。その話は、人間と動物の赤ちゃんを一緒に保育するというユニークな設定になっており、『ケニアの旗』を持った男子児童1人、『槍*1』を持った男子児童2人と『ライオンの赤ちゃんのぬいぐるみ』を持った保母*2さんの役の女子児童1人」が登場していた。

このエピソードは、『〇〇国』を紹介するという表象行為*3（Ohri, 2016）というオーリーの論文のなかで載せられていたものだ。彼女は、ケニアといえば槍や野生動物が登場するといったようなイベントが繰り返される*4 ことが、どのような結果を招きうるのかを次のように説明する。

「〇〇国」について最小化された情報が学びとなり、小さいころから繰り返されていく。我々は、次第にこのような学びに対する安心感を覚え、繰り返し同様の情報を期待し、少し逸脱*5 した情報に対して違和感を持ち、拒否することさえある。つまり、「〇〇国」をなるべくこのような最小化された学びに当てはめ、理解しようとするのだ。

ネットで検索*6 してみると、こうした 1) 〈国＝文化〉のステレオタイプな表象が、初等教育の現場では少なからず行われていることがわかる。しかもそれはそこだけにとどまらず、高等教育の場でも繰り返される。たとえば、ある短期大学の「異文化理解」に関する授業では、国別の文化紹介ビデオをつくらせたり、異文化交流パーティーを開いて国別に出し物を準備させたりといったことがなされているらしい。また、大学で行われている「異文化」に関連するカリキュラムのシラバスを検索すると、日本人のコミュニケーション・スタイルや、日米の文化比較およびコミュニケーションの違いについての学びを強調した授業が散見される。相手をステレオタイプなイメージで判断することの危険性といった講義内容が含まれているにもかかわらず、それとは矛盾するようなメッセージが実際には伝えられているようだ。

注)

- *1 槍・・・もつところが長く、先のとがった武器のこと
- *2 保母・・・こどもの世話をする女性のこと
- *3 表象行為・・・何かをあらわすこと
- *4 繰り返される・・・何度もおこなわれること
- *5 逸脱・・・一般的なことから、はずれたこと
- *6 検索・・・調べること

【参考文献】 Ohri, R. (2016) 『〇〇国』を紹介するという表象行為—そこにある『常識』を問う』『言語文化教育研究』14, 55-67.

【出典】 池田 理知子編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション・身近な『異』から考える』(三修社, 2019年), 第1章

(出題者注)

出題に際して、本文中の注)の語彙に説明を加えている。また本文中の漢字語彙のうち、日本語能力試験 N1 級レベルにあるものについては、ルビをふり、なおかつ出題上重要な語彙については、言い換えている箇所がある。

設問 本文では「¹⁾〈国=文化〉のステレオタイプな表象^{ひょうしょう}」の問題点が挙げられています。本文の例を参考にしながら、自分自身が考える〈国=文化〉のステレオタイプな表象^{ひょうしょう}の例をあげてください。そのうえで、そのことについての自分の考えを述べなさい。(500字～600字)